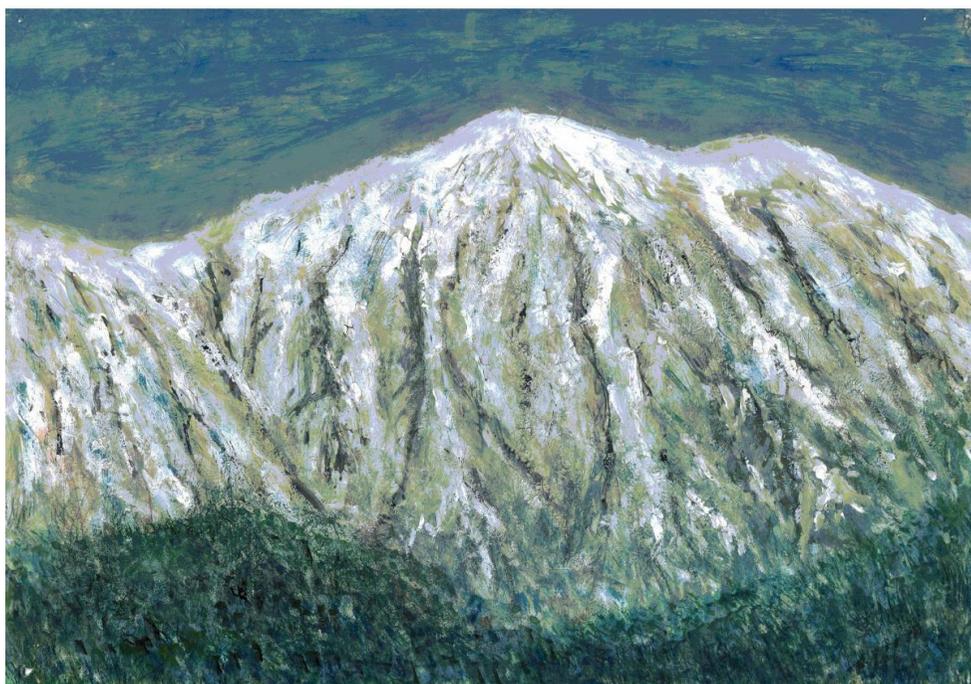


あかけら

No.340



2017. 3

岩手県勤労者山岳連盟



盛岡山友会



あかげら

3月号

も く じ

-
- 01 縦走路「山友会という「場」」 菅原富士夫
02 今後の日程（事務局）
-
- 03 今後の山行計画
-
- 08 運営委員会報告
10 事務局から
11 志向別グループからのお知らせ
◆ゆうゆう
12 行ってきました！
-
- ▲山行報告
13 鶏頭山 ピッケル・アイゼン訓練（A班） 中村 篤
15 初めての森吉山スキー 村田 真司
17 八幡平 柚澤瑠実子
19 安達太良山・刈田岳 ～銀世界・県外ツアー～ 久保加世子
-
- 21 講習会報告 「雪崩講習（初級）に参加してきました」 中村 篤
23 ある日ある時 “<時は春・・・>” 淡 望天
26 交流の広場

山友会に入会して早丸2年が経とうとしています。とはいえ、今まで参加した回数は4回。雪崩講習会、網張でのスキーとレスキュー訓練、秋田八幡平の山行、そして一昨年の忘年会という散々な状況。そんな私でしたが、辰巳さんから原稿の依頼を頂戴し、しかしこんな参加状況ではお断りするしかないと思ったものの、辰巳さんの屈託のない笑顔（年下なのにスママセン）を見て、断ることができませんでした。とはいえ、あかげらに投稿される皆さんみたいに文才があるわけでもなく、山の経験も豊富ではないため、これまでの自分と、これからの山友会での抱負を書き記したいと思います。

今までは山を楽しむ、というよりも所要時間をいかに短縮して登れるかにこだわり、半ばトレイルランニングのように一人で闇雲に登っていました。結婚、子育て、仕事の独立と目まぐるしい中で、友人と時間の都合を合わせるのが難しくなり、時間の空いた日に行ける近場にある山（八幡平周辺）に通い、一人が気楽で良いな、と思っていた時期でした。

6年前からテレマークスキーを始め、スクールに通い、他の生徒さんと初対面ながらもオフピステやツアーと一緒に参加したりを繰り返すにつれ、達成感を分かち合う素晴らしさを再認識し、同時に自分の寂しがり屋の性格も再認識した次第です。縁あって木村さんと出会い、山友会の存在を教えていただき、山遊びが好きな方々が集まっている会とくればそこはもう入るしかありません。当時の自分にははまさに渡りに船でした。

そして現在、参加回数が4回と、決して褒められたものではありませんが、雪崩の知識やゲレンデ以外での滑り方、或いは基礎登山など、自分に必要と思われる分野についてはなるべく参加してきました。有名な山とか、難しい山、標高が高い山を制覇したい、というような上昇志向よりも、生涯スポーツとして安全に楽しみたい、登りながら写真を撮って山風景を撮りためたい、登った後においしいビールを飲みたいなど、軟弱な考えばかりですが、今はそれに「仲間と」という枕詞が付くようになりました。

「仲間と」安全に楽しみたい、「仲間と」登っている写真を撮りたい、「仲間と」達成感を共に味わい、おいしいお酒を味わいたい。

それには山の知識と経験を身に着け、早く仲間と認めていただけるよう、そして山行の際には頼りにされる存在になるのが最善と考えております。そこまで成長するにはまだまだ長い道のりかとは思いますが、山行同様、焦らず、一步一步着実に進んで参りたいと考えております。

そんな「場」を与えてくれる山友会には改めて感謝すると共に、今まで以上に参加を増やし、居心地の良い会になるよう、微力ながら尽力していきたいと考えております。

今後の日程 (2017/4/1～2017/5/4)

	行 事		行 事
4/1	▲岩手山ハート沢の西尾根 (銀世界) ↑	18	☆第1回常任理事会 (県連)
土		火	
2	▲室根山 (山行企画)	19	
日		水	
3		20	
月		木	
4		21	
火		金	
5	◎第31回定期総会(勤労福祉会館)18:30～	22	▲八幡平 (銀世界) ～23日
水		土	▲桑原岳 ～ 上東山(県境)～23日
6	4/1～4/16 (暫定) No.2 渡邊健治	23	☆雪山交流会山行(焼石岳) (県連)
木		日	▲太田薬師 (山行企画) ▲八方山 (名山)
7		24	
金		月	
8	▲大森 TN ～ 下東山(県境)～9日	25	▲岩手山 (ウィーク)
土	▲焼石岳 (銀世界)	火	
9	▲御駒山、大土ガ森 (個人)	26	◎4月例会(勤労福祉会館)18:45～
日		水	
10		27	
月		木	
11		28	
火		金	
12	◎運営委員会(勤労福祉会館)18:45～	29	▲男助山 (山行企画)
水		土	▲会津駒ヶ岳・燧ヶ岳 (銀世界) ～30日
13		30	
木		日	
14		5/1	
金		月	
15	▲湯殿山・月山 (銀世界)	2	
土	▲桑原岳 ～ 大薊(県境)～16日	火	
16	▲カモメ森山 (個人)	3	
日	▲八方山 (ゆうゆう)	水	
17		4	▲鯨山 (個人)
月		木	

- ◆「やま・ともサロン」は日程を決めず、会員の希望により随時開放します。ご希望の方はお電話ください。090-4318-5128 (No.19 中村美栄子さん)
- ◆山行管理専用アドレス: morioka_yamakan@freeml.com

今後の山行計画

* 掲載の山行企画は全会員を対象としています。

【山域/ルート】 大森 TN ~ 下東山			企画	県境の風
実施日	4月8日 ~ 9日(1泊2日)	地形図	焼石岳 (1/25000)	
目的	秋田県境を歩く 大森 TN(P939)~下東山(P877) 県境区間7km			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(残雪期):★★	
コメント	県境を地図と磁石を頼りに、GPSで確認しながら辿ります 国道~県境まで約5kmあります。雪の状況を見て次週を予備日とします			
締切り	3月31日(金)	打ち合わせ	4月3日(月)	
問合せ	NO385 小田嘉洋 連絡先:TEL662-3535 090-8781-8137 mail可			

【山域/ルート】 焼石岳			企画	G 銀世界
実施日	4月8日(土)	地形図	焼石岳(1/25000)	
目的	焼石を滑る			
難易度	歩行:★★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	つぶ沼から入り銀名水を通り山頂へ			
締切り	3月31日(日)	打ち合わせ	4月6日(水) 銀世界例会 18:30	
問合せ	福山茂和 連絡先: TEL 090-7063-0788 メール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 御駒山 522m大土ガ森 680.3m			企画	千田勝則
実施日	4月9日(日)	地形図	切留・花山湖・岩が崎 (1/25000)	
目的	宮城県の山を登る			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	一足早く山野草を見てきます			
締切り	4月2日(日)	打ち合わせ	4月3日(月)おでつて2F 18:30	
問合せ	千田 勝則 連絡先: TEL 019-635-0201			

【山域/ルート】 湯殿山・月山			企画	G 銀世界
実施日	4月15日(土)	地形図	月山(1/25000)	
目的	月山・湯殿山を滑る			
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	日帰りか泊か参加者で決定			
締切り	3月31日(日)	打ち合わせ	4月6日(水) 銀世界例会 18:30	
問合せ	小原 耕 連絡先 : TEL 090-6250-0864 メール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 カモメ森山 326m			企画	千田勝則
実施日	4月16日(日)	地形図	大槌・釜石 (1/25000)	
目的	阿部陽子の里山を登る			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	登頂後御箱崎半島によってきます			
締切り	4月9日(日)	打ち合わせ	4月10日(月)おでつて2F 18:30	
問合せ	千田 勝則 連絡先 : TEL 019-635-0201			

【山域/ルート】 八方山 716.6m			企画	ゆうゆう
実施日	4月16日(日)	地形図	尻平川(1/25000)	
目的	ちょっと早い春を見つけに行く			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	新奥の細道を歩きましょう 長根崎口～頂上のピストン			
締切り	4月8日(土)	打ち合わせ	4月11日(火)中央公民館 1F 18:30	
問合せ	433 岡 義博 連絡先:TEL 080-6542-8871 Cメール			

【山域/ルート】 桑原岳 ～ 大薊			企画	県境の風
実施日	4月15日～16日(1泊2日)	地形図	真湯温泉・焼石岳 (1/25000)	
目的	秋田県境を歩く 桑原岳～大薊県境区間 5.5km			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(残雪期):★★	
コメント	祭時～胆沢ダムの中間付近から桑原岳の県境(5km)を目指します。 祭時～胆沢ダムの中間付近まで雪が融けていると車でいきます。次週順延			
締切り	4月7日(金)	打ち合わせ	4月10日(月)	
問合せ	NO370 本間典 連絡先:TEL653-7166 090-6782-2853 mail可			

【山域/ルート】 八幡平			企画	G 銀世界
実施日	4月22日(土)～23日(日)	地形図	八幡平(1/25000)	
目的	陵雲荘に泊まる			
難易度	歩行:★	荷物:★★	技術(無雪期):★★	
コメント	陵雲荘一泊で周辺をスキーで滑ります			
締切り	3月31日(金)	打ち合わせ	4月6日(木)勤労福祉(銀世界定例会)	
問合せ	石川 享子 連絡先:TEL 090-4315-7120 Cメール 銀世界掲示板			

【山域/ルート】 太田薬師 407.5m			企画	山行企画部
実施日	4月23日(日)	地形図	小岩井農場 (1/25000)	
目的	早春 山頂から盛岡の町を見よう			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	猪去地区リンゴ畑に沿って登る			
締切り	4月13日(木)	打ち合わせ	4月17日(月)18:30 オデッセ	
問合せ	加藤桂子 連絡先 : TEL 080-6036-1387 Cメール			

【山域/ルート】 八方山 716.6m			企画	岩手の名山歩こうかい
実施日	4月23日(日)	地形図	尻平川(1/25000)	
目的	岩手の名山を歩く			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	早春のブナ林と北上の田園風景を見に行きませんか			
締切り	4月15日(土)	打ち合わせ	4月17日(月)場所:おでって 2F18:30	
問合せ	北田絹恵 連絡先:TEL080-1676-0700			

【山域/ルート】 桑原岳 ～ 上東山			企画	県境の風
実施日	4月22日～23日(1泊2日)	地形図	焼石岳 (1/25000)	
目的	秋田県境を歩く 桑原岳～上東山県境区間 9km			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(残雪期):★★	
コメント	祭時～胆沢ダムの中間付近から桑原岳の県境(5km)を目指します。 下山ルートは秋田県側天江 5(5km)へ下山予定。次週順延			
締切り	4月14日(金)	打ち合わせ	4月17日(月)	
問合せ	NO385 小田嘉洋 連絡先:TEL662-3535 090-8781-8137 mail 可			

【山域/ルート】 焼石岳/つぶ沼残雪コース		企画	県連(主管:胆江労山)
実施日	4月23日(日)	地形図	焼石岳 (1/25000)
目的	県連雪山交流山行 ~残雪の焼石岳で交流しよう~		
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(積雪期):★
コメント	県連の交流山行です。 残雪の時期にしか歩けない魅力的なルートです。 スキーとツボ足のどちらでも参加できます。		
締切り	4月12日(水)	打ち合わせ	4月13日(木) 18:30 おでって2F
問合せ	渡邊 連絡先:携帯 090-9634-2257 SMS可		

【山域/ルート】 岩手山		企画	ウイークディクラブ
実施日	4月25日(火)	地形図	松川温泉・大更・篠崎 2万5千
目的	平日山行を楽しむ		
難易度	歩行:★★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★★
コメント	早春の岩手山に行けるところまで無理せず行ってみませんか		
締切り	4月11日(火)	打ち合わせ	4月17日(月) おでって2F 18:30
問合せ	工藤 敬子 連絡先:TEL 019-635-3203 FAX 可		

【山域/ルート】 男助山 716.6m		企画	山行企画部
実施日	4月29日(土)	地形図	鶯宿 (1/25000)
目的	春の山野草を見ながら歩く		
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★
コメント	温泉街を山の上から見ましょう		
締切り	4月16日(日)	打ち合わせ	4月22日(水)例会 18:20 勤労福祉会館
問合せ	山田 潔 連絡先:TEL 090-7073-8822 SMS メール		

【山域/ルート】 会津駒ヶ岳・燧ヶ岳		企画	G 銀世界
実施日	4月29日(土)~30日(日)	地形図	会津駒ヶ岳燧ヶ岳 (1/25000)
目的	会津駒と燧ヶ岳を滑る		
難易度	歩行:★★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★★
コメント	白い尾瀬ヶ原を見る		
締切り	3月30日(木)	打ち合わせ	4月6日(木) 銀世界例会 18:30
問合せ	山田 潔 連絡先:TEL 090-7073-8822 メール 銀世界掲示板		

【山域/ルート】 鯨山 610.2m			企画	千田勝則
実施日	5月4日(木)	地形図	大槌 (1/25000)	
目的	東北百名山			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	山頂からリアス式海岸を見渡す			
締切り	4月25日(火)	打ち合わせ	4月26日(水)18:15 例会前	
問合せ	千田 勝則 連絡先 : Tel 019-635-0201			

あかげら 4月号に掲載する山行計画は、郵送、メールにて、山行企画部 No.305 山田潔までお願いします。 メール：kyamada0815@ybb.ne.jp
締め切りは4月9日(日)です。

なお、フォーマットは会員専用 HP 左下の様式ダウンロードを御利用ください。

(参考:難易度基準)

◇ 歩行時間

難易度数	歩行時間	補足説明
★	3時間未満	日常生活で体を動かしていること。(八幡平散策)
★★	3~6時間	日常的に階段登りなどの運動をしていること。(姫神山)
★★★	6~8時間	上記に加え持続的に山登りをしていること。(早池峰)
★★★★	8~10時間	ランニング等で積極的に体づくりをしていること。(岩手山)
★★★★★	10時間以上	

◇ 荷物の重さ

難易度数	荷物の重さ	補足説明
★	5~8 kg	必要最小限の個人装備のみ(低山日帰り)
★★	8~12 kg	無雪期の有人小屋泊まり(有人小屋泊)
★★★	12~15 kg	無雪期の無人小屋一泊程度(無人小屋泊)
★★★★	15~18 kg	積雪期の一泊程度(無人小屋・テント泊)
★★★★★	18 kg以上	積雪期の連泊(テント泊)

◇ 技術力(無雪期)

難易度数	ルートの状況	補足説明
★	道明瞭/緩急少 危険箇所なし	整備された登山道をバランスを崩さずに歩けること。
★★	道明瞭 緩急あり 危険箇所あり	痩せ尾根や緩急の上り下りをバランスよく歩くことができること。また、落石等の危険箇所を通過する際の基本を身につけていること。
★★★	道一部不明瞭 鎖場等あり	藪ごぎの歩き方が身につけていること。 鎖場等の危険箇所への対処方法が身につけていること。
★★★★	岩場あり 雪渓あり 徒渉あり	三点確保ができること。 ピッケル・アイゼンワークができること。 徒渉の技術が身につけていること。
★★★★★	痩せ尾根/岩場 雪渓等ミックス	岩登りや雪上歩行など総合的な登山技術が身につけていること。

2016年度 第12回運営委員会報告

出席者確認(成立可: 12/18名)

2017.3.8(水)18:45～ 勤労福祉会館

渡邊 石澤 杣澤 千田 古川 山田(潔) 福山 小川 辰巳 岡(義) 大倉
舟越【オブザーバー】中村(数)

(進行: 渡邊)

1 会長あいさつ

先日、県連総会があり当会から12人が参加した。全県の会員数が10人減となり、300人を切ってしまった。先月の全国連評議会では、個人会員制が廃止される方向で決議されたが、登山愛好者のニーズにきちんと応える活動になっているか検証が必要だ。当会の総会方針でも、その視点を大事にしたい。

2 報告事項・確認事項

(1) 現在の組織状況(3月8日現在)

会員数103名(男53名/女50名) 登山時報48部

3月末の退会予定(敬称略) 会員(5人): 414 齋藤睦男 462 金子綾野
243 酒井くに子 47 橋本久 会友(1人): 226 山田徹生

(2) 各専門部等の取組状況

- ① 山行管理委員会…計画414件、実施363件、報告210件(57.9%) [3/5現在]
- ② 教育遭対部…3/12 雪山訓練(雪洞、アイゼン・ピッケル等) 15名予定
- ③ 事務局…会費未納者2名(3/8現在)
- ④ 県連理事…3/5定期総会(全体50人) 当会: 代議員9名/理事3名

3 協議・承認事項

(1) 総括・方針の検討について

検討が残っていた以下の事項について意見交換した。議案書の最終確認は、3月例会(22日)終了後に臨時運営委員会を開き決定する。

[事務局]

- ・会員拡大には、ホームページでの情報発信にもっと力を入れる必要あり。
- ・誰でも書き込めるブログの活用やあかげら山行報告の掲載もいいのではないか。(PDFをJPEGに変換し掲載するのが簡単)
- ・ホームページの全国連共通フォーマットがあればいい。(全国理事会に伝)

[山行管理委員会]

- ・山のグレードや技術レベルのセルフチェックなど、山行管理マニュアルとしてまとめ、会員全体で共有する方向で検討する。

〔会運営〕

- ・会員減少の中で、会員拡大に力を入れるべきではないか。

〔教育遭対部〕

- ・活動方針と事業計画は部会案のとおりとし、総会議案書への掲載にあたっては文言表現も入れる。(会長対応)

〔活動計画〕

- ・たたき台をもとに、各専門部でチェックし必要な追加・修正等を行う。
- ・登山教室は、机上をアイーナで夜3日間、実地を鞍掛山と三ツ石山とし、6月に全て実施する。(組織部)

(2) 決算・予算案の検討について

- ・記念事業基金は、30周年で21万円余支出したことから、35周年に向けて積み立てることとする。17年度は1万円。
- ・あかげら等の印刷製本費が全体予算の半分を占め、郵送料を含めて負担が大きくなっている。(会員減で収入が落ちていることも原因)
- ・全面的なPDF化をめざし、来年1年かけてPDFのみ会員を増やす取組を行う。(PDF配信を例会の2~3日前に前倒しも)
- ・併せて、手渡し協力会員を増やす取組も強める。

(3) 2017年度役員等の候補選定について

- ・運営委員会メンバーから候補者の推薦をもらい、会長が調整を行うこととした。(次回臨時運営委員会で候補決定)

4 その他

〔組織部から〕

- ・納山祭の開催場所について、ホテルでの宴会ではなく料理等持参できる会場を検討中。

事務局から

■第31回定期総会の開催について【重要】

4月5日、第31回定例総会を以下のとおり開催します。前年の活動総括と新年度の活動方針等を決めるもので、出席は会員の義務です。

一年を占う重要な会議ですので、多くの会員の出席をお願いします。

記

- 1 日時 2017年4月5日(水) 18:45～
- 2 場所 盛岡市勤労福祉会館
- 3 議題 2016年度活動総括及び決算、2017年度活動方針及び予算案ほか
- 4 出欠確認

出欠の確認と委任状の受付は、3月22日(水)の例会時に行います。

なお、例会に出席できない場合は、以下の連絡先までメールまたはファックスで出欠と委任状の提出をお願いします。【報告期限：3月31日(金)】

連絡先：事務局長代理 渡邊 Email: wataken0806@biglobe.jp

Fax:019-641-3905 SMS:090-9634-2257

※ 委任状の様式は、例会時に配布するとともに、会員専用 HP からダウンロードできます。

◆会員動向について (3/12 現在)

会員数 103 名 (男 53 名 / 女 50 名) 登山時報 48 部

3月末の退会予定(敬称略) 会員(5人)：414 齋藤睦男 462 金子綾野

243 酒井くに子 47 橋本久 450 佐藤妙子 会友(1人)：226 山田徹生

◆例会の司会と片づけ担当

月	担 当	月	担 当	月	担 当
4・10月	教育遭対部	5・11月	山行企画部	6・12月	会報部
7・1月	組織部	8・2月	事務局	9・3月	自然保護部

志向別グループからの お知らせ

◆ ゆうゆう

今後の山行計画

月	日	曜日	ゆうゆう	
			山の名前	担当
5月			七時雨山	吉田 成子
6月			三ツ石山	高橋 恵美子
7月			姫神山	岡 義博
8月			男助山	三澤 信裕

原稿のお願い

4月号の原稿締め切り

◎ 4月8日(土)

※手書き原稿の場合は、2日前までとします！

□ 送り先

◎手書き原稿（郵送）

会員No.357 渡部 彩子

〒020-0632 滝沢市牧野林 1047-66

Tel 090-7528-1968

◎メール原稿

会員No.301 久保 加世子

メールアドレス k-kubo@mba.nifty.ne.jp

行ってきました!

[2月13日～3月12日現在]

No.	月日	山域	ルート	目的	参加者名	会	分類
1	2月14日	太田薬師	参道口～太田薬師～猪去沢林道～上猪去	平日山行を楽しむ	L 工藤(敬)・S 級木・中村(美)・北田	4	会
2	2月18日	松川周辺(三ツ石山)	松川温泉～三ツ石山～P1448～奥産道(松川大橋)	三ツ石山から松川大橋へ滑る	L 木村(一)・S 三浦(良)・大峠・三浦(明)・松田(希)・松田(幸)	6	会
3	2月18日～2月19日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	八幡平の樹氷を楽しむ	L 山田(潔)・S 石川・S 村田・杉澤・木村(三)〔会員外〕2名	5	会
4	2月19日	姫神山	場内口～積雪期限定コース	積雪期限定コースを登る	L 工藤(敬)・S 本間(典)・中村(美)・遠藤(千)・新田・中根・石澤・日比野・熊谷(久)・北田・級木・加藤(桂)・小田(春)・小田	14	会
5	2月19日	貝吹岳	仙岩トンネル口～山頂往復	貝吹の新設を滑る	L 大峠・S 木村(一)・三浦(明)	3	会
6	2月19日	七俺の滝	岳コース	下見	L 中村(数)・S 高橋(陽)	2	個人
7	2月21日	高洞山	上米内駅～山頂往復	トレーニング	L 岡(義)・S 高橋(恵)・太田代	3	個人
8	2月25日	毛無森	岳～七俺の滝手前～毛無森往復	盛岡最高峰を登る	【A班】L 中村(数)・S 中根・高橋(陽)・中村(篤)・級木・大蔵・中村(美) 【B班】L 本間(典)・S 工藤(敬)・熊谷(久)・日比野・加藤(桂)・小田(嘉)・小田(春)	14	会
9	2月25日～2月26日	安達太良山、蔵王山(刈田岳)	安達太良高原スキー場コース、すみかわスノーパークコース	県外山行(山スキー)を楽しむ	L 大峠・S 山田・S 小泉・久保・村田・小原・杉澤・石川・徳永・木村(三)〔会員外〕1名	10	会
10	2月28日	森吉山	ゴンドラ終点～山頂往復	樹氷鑑賞	L 福山(茂)〔会員外〕1名	1	個人
11	3月1日	鞍掛山(897.1m)	相ノ沢コース(右回り)	鞍掛山トレーニング	L 岡(義)・S 高橋(恵)・太田代	3	個人
12	3月4日	栗駒山	いこいの村～山頂往復	栗駒山の大大斜面を滑る	L 木村(一)・S 三浦(良)・徳永・石川・三浦(明)・杉澤・村田・大峠・小泉	9	会
13	3月5日	八幡平	秋田八幡平スキー場～山頂往復	樹氷ツアー	杉澤 ※十和田八幡平観光物産協会主催	1	公募(民間団体)
14	3月5日	須賀倉山	雫石町大村口～山頂往復	紫波町最高峰の山を滑る	L 松田(希)・S 松田(幸)・S 石川・山田(潔)・大峠・三浦(明)・久保・福山(茂)	8	会
15	3月5日	八幡平	御在所P～黒谷地～山頂～茶臼小屋～御在所P	樹氷ツアー	L 古川・S 村田	2	個人
16	3月6日	東根山(927.4m)	ラ・フランスコース	トレーニング(雪山)	L 岡(義)・S 高橋(恵)・太田代	3	個人
17	3月11日	岩手山	相ノ沢P～七合目付近往復	岩手山を滑ろう	L 大峠・S 木村(一)・村田・杉澤・三浦(明)・徳永	6	会
18	3月11日	岩手山	屏風尾根	登ったことのないルートに登る	L 松田(幸)・松田(希)〔会員外〕1名	2	個人
19	3月11日	岩手山	網張スキー場～山頂往復	岩手山をスキーで楽しむ	L 古川・S 山田(潔)・石川	3	会
20	3月11日	三ツ石山	網張スキー場～山頂往復	三ツ石山を滑る	L 福山	1	個人
21	3月12日	網張スキー場	スキー場周辺	雪上訓練(雪洞、アイゼン・ピッケル、搬送など)	講師: 木村(一) スタッフ: 三浦(明)・中村(数)・野中・高橋(英)・小原(耕) 受講者: 工藤(敬)・加藤(桂)・岡(義)・小田(春)・高橋(陽)・中村(美)・級木・遠藤(千)・日比野	15	会

注: これは、あくまで速報的なものですので、掲載もれや誤り等がある場合はご容赦ください

山行報★告



鶏頭山 ピッケル・アイゼン訓練 (A班)

461 中村 篤

日時 平成 29 年 1 月 29 日 (晴れ)

参加者 C L 松田幸久 S L 木村一

工藤敬子 松田希 岡義博 小原耕 中村篤 他、釜石山友会 2 名

今年度の冬山入門講座は新年山行でワカン体験を行ったこともあり、ピッケル・アイゼン訓練は、そのあとの厳冬期の 1 月 29 日に行われた。

前回の冬山終了山行にも参加したが、そのときは雪も多くなく、また日帰りの分、今年の方が大変だろうと予想された。

松ちゃんの事前メールでは、鶏頭山で凍傷一步手前の寒さになったこともあるので、防寒対策はしっかり準備するように言われていたが、逆に人が多いときに過酷なシチュエーションを体験しておきたいな。と、実は少し期待していたのだが、当日は去年以上に良い天気恵まれ、過酷な厳冬期登山は今回はお預けとなった。

今年の訓練には、釜石山友会の方も一緒に参加された。

他の会では受講人数もそろわなかったりするので、なかなか講習を開けないということだったが、盛岡山友会も現在、教育遭対部のスタッフも不足しているし、経験も未熟なので、どんどん県内外の他の会と合同訓練をすればお互い補完しあえるのではないかと思う。

前年度の冬山終了山行では、順番は代わることなく、ずっと固定だったので気づかなかったが、列の前と後ろでは体力の消耗が全く違った。

特に先頭にたって歩くと、しばらく歩くと疲れて急にペースが落ちるのだが、交代して後ろに回ると、ペースもゆっくりになり道も固まっているので、楽に歩くことができ、体力を回復することができた。

ペースが落ちるまで頑張らずに早めに交代していくと行程のペースも落とさずに、メンバーの体力も温存しながら進むことができた。

人数が多いほど先頭を代わる人数が増えるので、雪山では人数が増えるほど有利になることがわかった。しかし、交代する人がいない単独だと、疲れてペースがおちても自分で先頭を歩き続けるしかないのも、夏と冬では単独の難易度が全く違うことが理解できた。

サラサラの新雪ではワカンはあまり効かず下が空洞だと踏み抜いてしまうことがよくあった。

靴とワカンの隙間から雪が抜けてしまうので、もしかしたらもう少し小さいワカンの方がかえって沈まないのかもしれない。

後日、忍者のようにそ〜っと歩き、ストックに体重を分散させると少しマシになることに気づくが、他のスノーシューの人たちがスイスイ歩くのを見てスノーシューの威力を知った。

単独の時や、体力に自信のない女の人などはワカンよりもむしろスノーシューの方が使えるのではないだろうかと思った。

岩場に出ると、ワカン・ストックからピッケル・アイゼンにとりかえたが、岩場にも雪が積も

っていたので、あまりアイゼンを利かせるようなシチュエーションはなく、ピッケルは雪が積もっていると、短いため下までとどかないのでバスケットのついたストックの方が安心感があるように感じられた。

しかし、稜線沿いの雪は固くモナカ状になっていて、新雪の雪よりも歩きやすかった。

鶏頭山一步手前のあたりで、B班の人たちがニセ鶏頭に登頂しはじめたのが確認できた。

岡さんがB班に大声で呼びかけていた。

山頂には予定時間より少しだけ早く着いたが、これだけ好条件でもほぼ予定通りだったので、気象次第で時間オーバーで登れないこともざらにあるのだろう。

山頂からは早池峰山はすぐ近くに見えたが、夏でもそこそこ時間がかかるので、見た目の距離感(特に冬や藪のときなどは)意外とあてにならないのかもしれない。

空は晴れていて見晴らしは良かったが、岩手山の上の方には雲がかかっている、こういうときの山頂付近の天気はどんな感じなのだろうと思った。

下りではB班の人たちと途中で合流して同時に下山した。

反省会では、松ちゃんに荷物のパッキングについてのアドバイスを受けた。

松ちゃんはいつも入れるものは、同じ袋に入れて、同じ場所に入れるので、見なくても触るだけでどこに何があるのか分かっているのだという。

そういえば、冬山入門講座の座学のときに、それほど大きくないザックにたくさんの荷物がきれいに収納されていたことを思い出した。

去年は冬山がまったくの初めてでアイゼンやワカンを着けるのに必死だったのが、1年たち、今年は道具も少し増えて冬山の経験が少しずつ積み重なっていくのが実感できたピッケル・アイゼントレーニングだった。



初めての森吉山スキー

村田 真司

日時：2017年2月4日 天候：曇り時々吹雪、後晴れ

メンバー：CL 古川、SL 三浦(明)、石川、大峠、杣澤、徳永、木村(一)、村田

工程：雫石総合運動場 P 6:00 ～ 阿仁スキー場 8:15/9:00 ～ゴンドラ終点 9:20～ 石森
(引返す) 10:00/10:15～第2ロマンスコース滑走 10:30/11:00 ～ゴンドラ頂上駅 11:45 ～スキーセンター 12:10

当初、2月5日(日)の計画であったが、天候が思わしくないと予想されたので、急遽、2月4日(土)へと一日繰り上げての山行となった。まだ暗い朝 6:00 に雫石総合運動場の駐車場に集合し、2台の車に分乗し森吉山へと向かった。2月のこの時期としては暖かく、30分も走れば明るくなって日も長くなりつつあるのを実感しながらであったので、森吉山を始めて滑る期待感が高まった。仙岩トンネルを抜けると、さすがに道路脇の雪壁が高くなっていき、秋田県に来た事を感じる。

田沢湖を過ぎると、道は細くなり雪壁はさらに高くなった。朝早い雪下ろしを始めている家々も増えてきた。ただし、例年に比べると半分くらいの雪の量だという。このまま、年々降雪が減り続け、山でスキーをするのは本当に希少で貴重な遊びになりやしないかと思いつく思いながら、2時間半ほどで阿仁スキー場に到着した。30台位の車があり、皆それぞれに準備を始めているところであった。

まだゴンドラは運行前だったので、スキーセンターで切符を買いながらしばらく雑談し、シールをスキーに貼った後、ゴンドラ乗り場に並んだ。ゴンドラの側面にあるスキーを固定する挿入部の形状が小さく、殆どの人はスノーボードと同様にスキー先端に保護袋をかぶせて、ゴンドラに乗らなければならない。結局、我々も全員、スキーをゴンドラ内に持ち込まなければならず、しかも、結構狭い室内なので、ザックを背負ったまま乗るのは窮屈であった。進むにつれ針葉樹帯や広葉樹帯がいくどか交互に現れるが、高度が上がると落葉した木に無氷の様に雪がつき、墨絵のようにきれいなどころもあり、気が和む時間であった。

しかし、ゴンドラを降りると、景色は一変し、風が強く、視界も数十メートル程度になった。先行者はスキーが1名と、途中で追い越すが徒歩の3名であった。スキーの先行者とは、数十メートル離れているが、風が強くなると見えなくなった。20分ほど、先行者のトレースをたどり、ラッセルを交代しながら進む。硬くなったパウダーという感じで、靴の高さほどのラッセルとなる。石森の標識を越え森吉神社と非難小屋との分岐のところで先行者に追いついた。風が強くなり視界は更に悪くなり、10メートル程度の瞬間もあった。午後から天候回復する予想だったが、この分岐点からいったんゴンドラ駅まで戻り、ゲレンデを楽しむためのリフト券を1枚買っていたので、ゲレンデを滑りながらしばらく様子を見る事とした。



シールを剥がして、登りのトレースに従い滑り始めた。下がるにつれ、視界も良くなってきたせいもあるが、登りでは先行者のトレースに集中していたため気づかなかった雪庇の上を歩いていた箇所があった。数メートル以上に渡ってクラックが入っていて、しかも、ここを滑る際に雪が割れる音まで聞こえていた人がいた。落ちれば10メートルは滑落したと思われ、ヒヤリとした瞬間であった。他人のトレースを妄信するのは危険な事をあらためて思い知らされた。

この頃から、スキーやスノーシューで登ってくる人達と多くすれ違い始めたため、注意を呼びかけながらリフト最終地点まで到着。お楽しみのゲレンデを滑る事とした。ゲレンデは非圧雪のところもあり、時々林の中もすべり、深雪を楽しめた。スキーヤーもそんなに多くはなく、空いており楽しめた。1本分のコースを滑り終わると再びリフトで上がり、ゴンドララ頂上駅休憩所で昼食をとった。



木の香りがする新しい休憩所で、登山やスキーだけでなく、樹氷見学の人たちで混んでいた。ここで30分ほど休憩したが、天候は変わらなかったため、下山する事となった。樹林帯の軽い雪も楽しみながらゲレンデを滑り降りてきた。今回、悪天候のため途中で引き返す事となったが、やはり、山は来て見ないとわからないところがある。ザックを背負っての森吉山は、岩手と比べ

積雪量が多いしスキー場としてのコースも長く、次回は、是非、好天の時に滑りたいと思った。





八幡平

460 杣澤 瑠実子

たおやかな山容に瑞々しい湿原を湛える花の名山。対峙する岩手山が男性的な山ならば、八幡平は女性のような山と言えるであろう。

女性のような・・・そう、何とも気まぐれで、ツンデレな山なのです。

2/18～19日：秋田八幡平スキー場～八幡平山頂～陵雲荘(泊)～秋田八幡平スキー場

1日目

当初の計画より1週延期になった今回の八幡平山行。朝の出発時、盛岡は晴れ渡り、このまま行けば青空の下で樹氷が見られるのでは？と期待に胸を膨らませ出発した。高速道路を走り、竜が森の峠に差し掛かるころ小雪が舞い始める。次第に吹雪に変わったかと思えば、また青空が見える。この繰り返し、猫の瞳のように目まぐるしく変わる天気、秋田八幡平スキー場に着くも行く・行かないで意見がわかれ、なかなか決断がつかない。時折見える青空に諦めたくないと言いつつ、天気を見て行ける所まで悪化したら引き返すという事で、出発することができた。

長～い1本のリフトに乗り、蒸の湯トイレの前でシールを着ける。後続のスノーシュー2人組がやって来たが、我々のトレースを使うつもりらしく、時間のかかるシールの装着も、この後の休憩中もずっと後ろで待っている(苦笑)

最初の急坂を上りきり、休んでいると長い竹竿を携えた見覚えのある人が。樹氷ルートを設置に来たビジターセンター職員の2人(私はパークボランティアでいつもお世話になっている)サクサクと先行して行った。本当ならば交代で先を行きたい所だが、シールトラブルなどもあり思うように進めない。

次第に霧氷の美しい木へと変わり、雲間の青空から日が差せば最高に美しい景色を見せてくれる。250番の田代沼のあたりから、すっかり樹氷らしくなり、先日の高温で多少落ちたとはいえ見ごたえ十分。

しかしここから吹雪が強くなる。8合目の藤助森で竹竿設置の2人は引き返していったが、我々は吹雪の中フラッグを立てながら山頂を目指す。

右往左往しながらも山頂展望台に辿り着き、まず一安心。

と思いきや、ここからが大変だった。樹氷ルートは未だ山頂までしか付いておらず、ここからは自分達でルートを探さなければならない。

GPSは3台あるので十分だと思っていたが、地図上と実際の地形の違いもあり、予定より手前の急斜面に出てしまう、ここでは下りられないので仕切り直して山頂まで戻る。途中シールの不具合で度々行動が止まる、吹雪の中での行動停止は一段と厳

しい。

夏道を想定してコースをとり直し、視界が悪い中恐る恐る進む。GPSで位置は確認できても、目視出来ないとなかなか辿り着けない。本当に合っているのか不安になる。私を含む3人は、小屋手前の斜面だと思って下りた所が八幡沼の湖畔だったらしく、上と下の2班に分かれた。小屋を探すと前方にボンヤリと小屋の影が見えた。「小屋だ！」と歓喜の声がする方を見上げれば張り出した雪庇の上に人影が。危機一髪で崩壊は避けられましたが、小屋に入ったらもうヘトヘト。

賑やかな宴会といきたい所でしたが、明日の事が気になるのでやや控えめに。出発も繰り上げ、早めに就寝して明日に備える。

2日目

予定通りの吹雪のため、しっかりとミーティングをする。不調のシールはガチガチに固定、第1目標の山頂を目指し、意を決し吹雪の中へ。

後にログを確認した所、だいぶ迷走していたが、どうにか山頂へ到着。ここから藤助森まで樹氷ルートラインに乗り、視界は悪いながらも順調に進めた。

皆、吹雪の中でゴーグルやサングラスが凍ってしまい、視界の確保に苦労する。私は以前の報告書にあった事から、予備のゴーグルを最後の最後までとっておいていたため、交換して視界を保つ事ができた。報告書は大事！

見える私が先頭に行く、普段先頭を歩く事が少ないのでその大変さを身をもって知ることができた。

下がるとウソの様に穏やかになり、うっすらと青空まで見えてきた、本当に気まぐれ……。そして何とか下山。

反省

多々ありますが。結果論でしかないため何が最善だったかは誰にもわかりませんが、話合うポイント、引き返すタイミングなど反省会では話合いました。

天候は選べません、人の予測とかけ離れる事も多々あります、特に山では。

道具は選べます、悪い状況に合わせて準備しておく事が2次災害を予防できます。自らの口から「良い経験でした」と中々言いにくい所ですが、「あの時に良い勉強をしたね」と言って頂けるように、この経験を糧にして行きます。



安達太良山・刈田岳 ～銀世界 県外ツアー～

301 久保加世子

日 時：2017年2月25日（土）26日（日）

メンバー：CL大峠、SL山田潔、SL小泉、石川、徳永、柚澤、村田、木村（三）、
久保、会員外（西村）

行 程

25日安達太良山：盛岡IC 5:00—9:10 安達太良スキー場 9:35—10:00 リフト頂上
—10:40 五葉松平—10:55 薬師岳山頂—11:40 仙女平分岐—
12:20 撤退—14:00 スキーセンター

26日刈田岳：もみの木山荘 7:45—8:20 澄川スキー場 9:00—リフト頂上 9:30
—11:15 刈田岳山頂—スキーセンター 12:30（遠刈田温泉）—
17:10 盛岡IC

25日早朝、盛岡ICを3台の車に分乗して出発です。福島方面のお天気はまずまずの予報ですが、風は強いとか。この安達太良山・刈田岳ツアーはこれまでも何回か計画されていますが、あまりお天気に恵まれない感じです。さて、今回は??

途中、北上周辺で吹雪となりましたが、その後はお天気も良く、安達太良山スキー場のリフト2本に乗って、いよいよ登りです。

CLから最初は急登と言われていましたが、まさにその通り。斜面もクラストしていて登りづらい。30分ほどですがかなり息が上がりました。五葉松平まで来ると斜度も緩くなり、目指す安達太良山もうっすらと見えていました。

薬師岳山頂を経て、仙女平分岐まで来ると、徐々に視界が悪くなり風も強くなってきました。下山してきた人たちに話を聞くと山頂付近はホワイトアウト状態で、風もかなり強いとのこと。気を引き締めて進みます。

しかし、山頂が近づくにつれ斜面はアイスバーン状態となり、風も正面から強く吹かれ、時には転倒しないようにと立ち止まらなければならないような状況。視界も悪いということもあって、12時20分に下山となりました。

風が少し弱くなるまでシールを付けたまま下ることになりましたが、斜面も視界も悪く緊張しながら滑ります。慎重に下り、視界が良くなるとやっと一息です。斜面は快適ではありませんでしたが、みなそれぞれ滑走を楽しみます。最後は今は運行停止となっているゴンドラ山頂駅からゲレンデに入り、スキーセンターに到着しました。

下山すると下界は良いお天気…。泊まる遠刈田温泉の貸別荘に向かう途中からは安達太良山もキレイに見えるし、宮城蔵王の山々もクッキリと!!

「明日の刈田岳は期待できるかも」とワクワクしてきました。

泊まった遠刈田温泉の貸別荘「もみの木」は炊事道具やベッドがあり、小さいですが浴室には温泉が引かれていて（2人は入れませ）、とても快適なところでした（メンバーみんな満足でしたあ〜）。



さて、26日。朝日を見ながら朝食です。すみかわスキー場も青空が広がっています。9時のリフト

運転開始までスキーセンターで待っていると大型バスが到着し大勢の樹氷観賞ツアーの人たちが降りてきました。キャットで上がるようで、人気の高さがうかがえました（実際、刈田岳に登っている途中に5台ものキャットが下りてきました）。すみかわスキー場のリフト係の方々はとても良い感じで「行ってらっしゃい！」「お天気が良いといいね」など声をかけてくれました。

しかし、登っている途中から視界が悪くなってきました。ピンクテープや竹竿がさしてあるのでそれを辿って行きますが、もう少しで山頂というところでホワイトアウト状態・・・先頭に行くSLの小泉さんの「鳥居だ！」という声で目の前に真白く雪に覆われた鳥居があることに気がつきました。刈田岳山頂の神社の鳥居でした。

山頂付近は視界不良の真っ白な世界で残念ながら樹氷も他の景色も見えません。この日もシールを付けたまた安全なところまでまずは下山です。斜面もやはりガリガリでブレーキをかけながらの滑走で脚が疲れてきました。シールをとってから、どこを滑ろうかと皆で検討します。良さそうな斜面を見つけて滑走となりましたが、雪の状態はこれまたいまひとつ。でも、自然が相手ですからしょうがないですね。下山するにつれお天気も良くなり、それだけで滑走も楽しくなります。



無事にスキー場へ下山し、途中遠刈田温泉で汗を流して盛岡に帰ってきました。

ワイワイと話し、登り、滑り、楽しい二日間でした。長い距離車を運転してくれた大峠さん、山田さん、村田さんをはじめ、メンバーの皆さまどうもありがとうございました。

（刈田岳への途中にて）

雪崩講習(初級)に参加してきました

461 中村 篤

1日目の座学では、主に雪崩の危険の推測、天気図からの推測と、地形からの推測についての講義を受けました。

雪崩は弱層の上に雪が降り積もり、その降り積もった上の層が、雪の重みや外からの負荷により崩れ流れていくことで起こります(表層雪崩)

弱層とは積雪の表面が昼間溶けて氷状になった層のことです。氷状の表面(弱層)と新しく降った雪ではお互いの結びつきが、同じときに積もった雪同士の結びつきよりも弱いので、その弱層の部分が滑り台のようになって雪が雪崩れてしまうのです。

晴れた日や、雪の降っていない期間、その後雪が降った日、降った量などを調べることで、雪崩の危険度が推測できます。

具体的には、雪が何回積もったかで層の数が、雪が降るあいまの気温や天気での程度弱層が氷状になっているか、雪の降った量や気温で層の厚さや雪の重みを推測するのですが、予想を立てるには天気図を定期的に観測し続ける必要があります。

天気図は高層天気図というものがあり、標高が高い天気図ほど地上の影響が少なくなります。しかし地上3000mの天気図なら日本アルプスの稜線上の高さにあたるので、山に行くときの気温や風の予報に便利です。

この高層天気図を1週間分くらい見続けていると、低気圧の動きの予想ができるようになってくるらしいです。

自分はずっと天気予報は、わかりやすい「雨雲の動き」しか見ませんでした。高層天気図に興味が出てきました。

地形からの推測は無雪期の山の地形(傾斜、樹木の有無、方位、稜線の特定に役立つ目標物)から、雪庇や吹溜り、空洞などがどのようにできているかを観察、予測し、風の強さや斜度、樹木や方位、過去の雪崩の頻度などから雪崩の危険度を推測する方法です。

もちろんこの場合も雪層の厚さや層同士の結び着きの弱さが雪崩にとって重要になります

2日目の野外実習では午前中に主に表層テスト、午後にビーコン訓練、最後にスタッフによる搬送の実演という流れでした。

表層テストではスクラムテストで実際に層のところで崩れる様や人が歩くことによって負荷がかかり、ヒビが入る様子、目には見えないが軽く衝撃を与えると、きれいに割れるところがあり、そこをなめると、雪ではなく氷状の粒々になっていることが

確認できたりしました。

また、ゾンデ棒で実際に人を突いて感触を確かめましたが、雪はスルスルと入っていくのに対し、人の感触はぐにやりと生々しい感触でした。

ゾンデ棒は先が尖っているので、むやみやたらに突かないようにする必要があります。

そのために、ある程度、ビーコンで深さの目星をつけておくのですが、おそらく実際の搜索では、焦って急いで突いてしまうでしょう。

また、カナダの最新の指針ではとにかくスピード勝負ということで、ビーコンはおおよその位置までしか測らないらしいです。

しかし、ゾンデ棒が雪の下の人の中のどの部分に当たるかわからないということは頭にいれておくべきでしょう。

ビーコンでは埋まったビーコンの向きによって電波がとらえにくくなるため、アンテナを電波がどの向きからきても受信しやすいように、ビーコンを縦、横、立てる、各斜めに向けるなどの工夫が必要だと学びました。

特に自分の機種はアンテナが2本なので、角度をかえていく必要があります。それと、自分の機種では何人埋まっているかわからない、見つけたビーコンを off にする機能がない等の弱点の確認ができました。

最後のスタッフによる実演では、実際に雪崩がおきて、人を探すところから、救助後の搬送までの流れを見せてもらいました。

その際、講師の方から、1人が全体をみて指示をだす係に徹すること(全員で作業すると必要な流れ、事項を見落とす可能性がある)、その際なんでもよいので、手の空いてる人には仕事を与えた方がよいこと(仕事を与えられた方が安心する)、ロープをかませるカラビナがない場合、雪玉や石でも代用できることなどの解説がありました。

天気図や雪崩の話は難しく、何度も反復して憶える必要があるので来年も参加しようと思います。

“<時は春・・・>”



中津川の山賀橋付近に白鳥が来なくなってから久しい。どういうわけが、今年は二、三度姿を見せた。七、八羽の集団で、多分家族ではないかと思った。というのも、まだ羽の色が灰色の子白鳥が混ざっている。春になって北へ帰るための飛行練習のためなのかも。

季節は巡り、また同じ春がやってくると思えば、どおって、ことない。人は一年中忙しい。季節の移り変わりどころの話じゃない。という生き方も

ありと思うが、どこかむなし。もっとも、季節の変化に反応したからといって、注目されるわけではない。世のため、人のためなるとは言いにくい。世のため人のためというならば、ああ、春だなあと感じるより、仕事だ、仕事だとなるのではないか。自分ひとりだけの時間つぶしはよくないとなる。地位、身分、給与が上がり、その上、尊敬されるはずがないではないか。生物進化論に従えば、季節の変化に気を奪われているのは原始人なのだ。現代人ほど季節を無視しなければならない。といたいだが、季節の変化という風情を楽しむ現代の原始人もしぶとく残っている。

生きるのに必要なものは、現代では生命力でなく生活力（お金）だ。でも、お金（食糧）は身体を満たすことはできても、心は満たせない。心を満たす手っ取り早い方法は名誉という他者の評価を得ること。これは大いに自己満足させる力がある。でも、お金も名誉もすべて他人しだい。となるとつねに他人に左右されて生きることになる。どんなに金があっても、立身出世しても、褒め称える他人がいないと虚しくなってしまう。いつも他人まかせの人生では落ち着いて過ごせない。

そこで、どうしても他人に頼らない、自分の人生が必要になってくる。他人など関係ない、自分が満足できればいい。いわゆる自己満足だ。ところが、この言葉にも欠陥がある。他人の評価に左右されないという意味よりも、他人との関わりを拒否しがちになるからだ。自分一人だけの世界に入りこんで、他人を完全遮断しなければ満足できない、いや安心できないのだ。

では、なぜ完全遮断するのだろうか。それは他者のことばに傷つけられるのを恐れるからだ。重い鎧をまとして歩くのだ。不安に打ち勝つために自縄自縛の不自由を選ぶことになってしまう。仲間の報復を恐れて、自ら牢獄入りするマフィアのようなものだ。からだの安全は保障できても、心は闇のまま。心も体ものびのびというわけにはいかない。

そもそも他人というのは煩わしい存在だ。煩わしさは口に苦い良薬だ。いてもいなくてもいいのなら、他人じゃなくなるのだから。その他人とかかわりつつも、心が満たされる方法があるのだろうか。なぜ山に登るのかという疑問への答えもここにもあるような気がする。山という自然にたいして、自己満足するという仕方は、やはり現実逃避、牢獄の安全を求める方法だ。もっとも、山の厳しさは苦い薬となる。たとえ独り登山でも、山と対峙する苦さ、残してきた家族、友人、社会との関係は消えることはない。他人との関わりを否定せず、なおかつ大自然と楽しく付き合う、これが登山の醍醐味ではないだろうか。

見ざる聞かざる言わざるの<三猿>は緊急避難の術だ。でもそれは牢獄の安心にすぎない。こころとからだがおんとうに楽しめるのは、<見て、聞いて、言う>ときだ。目、耳、口が動いているのは、自らの行動を由（よし）としている。自由つまり解放されているのだから、おのずと生き生きすることになる。

こころが素直に自然と向かい合い、ことばを交わせるのはそんなときは、くふるさとの山に向ひて言ふことなし …>と啄木が語るのを聞けば、だれもがくうん、そうだと感じてしまう。生命が躍動する時と、見て、聞いて、声を上げているときは同じなのだ。この時、生命は自然そのものとなっている。自然と一体化するには登山がいい。裸の自分を受け入れてくれる場所なのだから。でも、山に登らないやり方もないわけではない。それは、詩ということばの山に登ることだ。

中国人の孟浩然是、春のことばを目と耳で語る。

しゅんみんあかつき 春眠 曉を覚えず しよしよていちよう 処処啼鳥を聞く やらいふうう 夜来風雨の声 花落つこと知る多少
と歌った。寒さの冬を過ぎて、うとうととまどろむ春の訪れ（という自然の姿）を、詩人のからだに語っている。一人の他人としての詩人が語るのを聞いて、読者という一人の他人もまた同じ感動に揺れる。他人であって他人でない、共感覚の世界を楽しむことができる。

日本人にも春の歌がある。

春の海 終日（ひねもす）のたりのたり哉 （蕪村）

海のない県で育ったわたしでも、<のたりのたり>とゆったりとただよう波の姿、その波が醸し出す潮騒の音色などをからだに想像して受け止めてしまう。ことばによる<春の海>は蕪村の想像した自然。ほんとうなら、他人には見えない想像上の自然なのだが、<春の海>ということばの羅針盤が多くの人を同じ方向に結び付けてしまう。

イギリスの詩人ロバート・ブラウニングも春を詠う。

時は春、／日は朝、／朝は七時、片岡に露みちて、

揚雲雀（あげひばり）なのりいで、／蝸牛枝に這ひ、

神、そらに知ろしめす。／なべて世は事も無し。（上田敏訳・「海潮音」より）

皮膚が感ずる春の朝、目に映る露（つゆ）やカタツムリ、耳に入るヒバリの声、見れども見えず聞けども聞こえず、けれども存在するという第六感の世界である神、などなどを取り入れた、身体感覚のすべてが春の息吹を語っている。地上のどの場所にしようとも、自然の変化を見て聞いて話すことは、時代や人種、進化論とは無関係だ。自然界の中の一つの存在として、人としてどう感じ、どう語るかが問題なのだ。

黙々と登山する。それは大自然とところの交流をしている時。沈黙のこぼれを目と耳と口に出すのは俗界に戻ってから、他人に語ることにしよう。

*上田敏「春の朝（あした）」翻訳。（「万年艸」明治35年12月発表）（『海潮音』明治38年10月刊所収）

<http://www.geocities.jp/sybrma/05pippa.htm> より

時は春、The year's at the spring, 日は朝（あした）、The day's at the morn;朝（あした）は七時、Morning's at seven;

片岡（かたをか）に露みちて、The hillside's dew pearled;揚雲雀（あげひばり）なのりいで、(*) The lark's on the wing;

蝸牛枝に這（は）ひ、The snail's on the thorn;神、そらに知ろしめす。God's in His heaven, すべて世は事も無し。

All's right with the world!

交流の広場

春らしくなってきました。もう少し暖かくなったら、山小屋でコーヒーでも飲みながらゆっくり読書はいかがですか？今月は会員お二人に本の紹介をしていただきます。

①本のタイトル 14歳からの哲学入門

②著者 飲茶

③出版社 二見書房

④本の紹介

山や自然と全く無縁の分野ですが、最近読んだ本の中で一番おもしろかった本ですので、あえてKYを承知でご紹介したいと思います。

「エ？哲学・・・そんなもの高尚で眉間に皺を寄せながら、しかめっ面が似合う人だけの学問じゃないの」とお考えの方にぜひ読んでいただきたいです。内容は17世紀から現代までの哲学の流れをそれぞれの時代を代表する偉人(変人?)の思想を紹介することで解説しています。本書以外にもこの手の本はたくさんありますが、本書が通り一遍の教養書と一線を画すのは、その圧倒的なわかり易さと今風の例えにあると思います。かと言って「14歳からの」とありますが、決して若者向けというわけではありません。(なぜ14歳からなのかは読んでのお楽しみ) なにより著者の立ち位置が絶妙で、どの思想家に対してもやさしく温かみのある視線を感じてしまいます。

「なんだこの人、こんな青臭いことを考えていたのか・・・」とか「似たようなこと自分も考えていたなあ・・・」と読後に思われたら、きっと哲学が身近なものとなっているはずです。授業がつまらなくて倫社の教科書を落書きだらけにした覚えがある方(私もその一人)や昔、興味があったけど最近はずかしくて遠ざかっている方におすすめてです。たまには山の中で思索に耽るのも乙なものかもしれませんよ。

(No.420 徳永 光保)

①本のタイトル それでも、わたしは山に登る

②著者 田部井淳子

③出版社 文芸春秋

④本の紹介

この本は山の本というより、著者の前向きな生き方についての本です。

前書きにもあるとおり、切羽詰まった状態になった時、つまり土壇場に立たされた時、どう行動したかについて、と書かれています。

雪崩にあったときから、遠征中の人間関係、ガンになったときまで綴られていて、あまり深刻にならず、あっさりとお前向きに明るく、書かれているので読みやすく、そして山が好きというより、生活の一部で当たり前で、抗がん剤の副作用で手足がしびれていても、登ることは決して諦めず、海外にも行って、今出来ることを精一杯する。

力尽きるまで自分のペースで楽しく突き進む。生きていることはやっぱり楽しい。歩くことが生きることだ。

そんな著者の姿が眩しく輝き、優しさと強さを持ちつつ、素敵なお人だと確信します。

第二弾の「再発! それでもわたしは山に登る」も出版されています。そしてご冥福をお祈りしつつ、前向きな生き方に勇気をもたらったことに感謝します。

(No.423 小川 優子)

会報部員のひとこと

山でのお昼ごはんは忙しさに追われ(ているフリをして!!)、コンビニやスーパーでパン、おにぎり、カップラーメンなどを買っている。最近山行をご一緒した K さんは白飯おにぎりとお湯を持って行きお茶漬けにするという。ナイスアイデアである。また、別の K さんはお手製の梅干し入りおにぎりをその日の山行に合わせた個数持って来て、美味しそうに頬張っている。今度の山行には自分でご飯を握って持っていこうかな〜🍱 (希)

■□ 表紙の言葉 □■

— 早池峰縦走 —

3月に鶏頭山から登り、中岳付近にテント泊し、早池峰山頂から河原の坊に下山し、振り返った時に見えた景色を描いてみました。

小さい頃家から見た早池峰山と、冬に縦走し、歩いて見えた景色とは違い、感慨深いものがありました。

No. 237 中村 数博

あかげら 第340号

2017年3月22日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 会報部長 辰巳和司

印刷／製本 (有)小松茂印刷所

盛岡市大沢川原2-5-37

019-623-6073

■盛岡山友会のホームページ■

http://www.geocities.jp/morioka_sanyukai/

～里山からヒマラヤまで安く、楽しく、安全に！～